

玉川上水・野の花だより No. 43

ツユクサ *Commelina communis* (ツユクサ科)

東京大学名誉教授 中央大学研究開発機構・機構客員教授

石川 幹子 2026年 9月24日

初夏から、咲き続けていたツユクサですが、いよいよ秋となり、名残り惜しいため、「野の花だより」に掲載することといたしました。「雑草という草はない」という言葉が、ピッタリの野の花です。朝（あした）に咲き、昼にはしぼむことが、「朝露」を連想させ、この名前がついたと言われています。

写真1は、9月23日10時に撮影したものです。群青色の2枚の花弁が、蝶がはばたくように広がり、見えにくいとおもいますが、その下に1枚の透明の花弁が支えています。雄しべは6本ありますが、2本が長く突き出ている先端は弧を描いています。残りの4本は、群青色の花弁を引き立てるように、柔らかなクリーム色で、この色彩の組み合わせが心をとらえます。写真2は、同じ花ですが、前日の9月22日14時に撮影したものです。



写真1 ツユクサ 9月23日10時

花弁はすっかりしぼんでいることがわかります。このことを知らなかったという方が、おられましたので、2日をかけて撮影しました。

玉川上水にも、秋の気配が漂ってきました。また、来年の初夏に巡り合えるといいですね。しばしのお別れです。



写真2 ツユクサ 9月22日14時



写真3 ツユクサ 9月23日10時（稻荷橋）